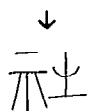


# 社

三年

画数 7  
筆順 シヤ  
オン シャ  
クン やしろ

成り立ち



「かみさま」にそなえるものをおくつくえのかたちをあらわして「かみさま」といういみをあらわした「社」と「土」とをくみあわせてつくった字です。

「かみさま」には、「天のかみさま」と「地のかみさま」とあり、天のかみさまは天子がおまつりし、人びとは地のかみさまをおまつりしました。「社」は「地（土地）のかみさま」をあらわした字です。

しかし、いまでは、「かみさまをおまつりした」たてもの（やしろ）のいみにつかいます。

「天の神が、神で、地の神が社で、これを合せて神社」というわけだが、今は「神社」は「神の社」のことであり、神も天地にかかわりなく使われる。

使い方

▽むかしは、その土地の神さまを、むらのまん中におまつりして、これを「お社」といいました。  
▽おとうさんは会社の社員なので、会社の社宅にすんでいます。

熟語例

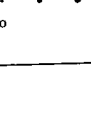
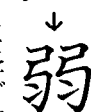
▽神社（かみさまのお社。神さまをおまつりしてあるところ。お宮ともいいます。）  
▽社会（むかし、土地の神さまをまつったお社を中心に人びとがあつまり会って「村」がつくられました。それで、人びとのすむところを社会といいました。人のすむところ。また、「世の中」といういみ）  
▽社交（社会での交際。人と人とのつきあい）  
▽社交界（人びとがあつまり交際をするばしょ。また、交際をたのしむ人びとの世界）  
▽会社（人びとがあつまり、きょうどうしてしごとをする営利団体）  
▽社員（会社にとめる人。員はつとめる人）のいみ。  
〔例〕銀行員、駅員、局員）  
▽社宅（会社が社員のためにたてた住宅）

# 弱

三年

画数 10  
筆順 コ  
オン シャク  
クン よわい

成り立ち



まがった「とりの羽」のかたちをあらわした字です。ひなごりの「よわい」羽をあらわした字で、「よわい」といういみをあらわしました。

「弱くなる」といういみで「弱る」「弱まる」というつかいかたがあり、「弱くする」といういみで、「弱める」というつかいかたをします。

また、おなじジャクとよむ「若（わか）い」のいみにつかうこともあります。「弱年」は「年が若い」といういみのことばです。

「この字も諸説の中から、最も古い説文の説を選んだ。この字の理解を助ける「羽（二年85）」を参照」

二年

使い方

▽おとうとは弱虫でしたが、それは病弱だったからだとおもいます。  
▽弱肉強食の世の中では、弱気ではとてもいきぬいていくことはできません。

熟語例

▽弱気（気が弱いこと。ひっこみじあん）  
▽病弱（病気で体が弱いこと。）  
▽弱虫（弱い人をばかにして虫といったものです。）  
▽弱点（弱い点。「弱み」ともいいます。）  
▽弱小（弱くて小さいこと。）  
▽弱体（体が弱いこと。そしきや体制が弱いこと。）  
▽弱震（「弱い地震」といういみのことば）  
▽弱視（「視力が弱い」といういみのことばで、目のびようきがでないのに生まれつき視力が弱いこと。）  
▽弱肉強食（弱いものの肉を強いものが食べる、ということ。で、「強いものがさかえ、弱いものがほろびる」といって、しぜんかいはのすがたをあらわしたもの）  
▽弱り目にたたり目（弱っているときには、さらにわるいことがさかさりやすいことをいったことば）